



対空挺戦闘 8戦大(8師団)



物量投下 空挺団(中即集団)



情報収集活動 無偵隊(西方情報隊)



空挺自由降下 空挺団(中即集団)



敵部隊の包囲 対馬警備隊(4師団)



地对空ミサイルのヘリ搭載 3高群(2高団)・西方航空隊



水際地雷の敷設 9旅群(5施設団)



汚染地域の除染 8特防(8師団)

平成27年度鎮西演習



敵部隊の制圧 対馬警備隊(4師団)



敵部隊の掃討 対馬警備隊(4師団)

対馬警備隊長 三塚1佐の訓示「強い部隊というのは、部隊の基本的行動、隊員の基礎動作をどんなに疲れていても、長い任務になろうとも、淡々と当たり前のようにしっかりとやり続けられる部隊のことである。要望事項『やるべきことはやれ!』を踏まえ、本練成訓練にしっかりと臨んでくれ」



負傷者の救護 福岡病院



火力戦闘 8特連(8師団)



空自短SAMの対空戦闘 空自8防隊(福岡築城基地)



河川敷の環境美化奉仕活動 7高群(2高団)



統合後方補給 4後支連(4師団)



歓迎の中の前進 5地对艦(西方特科隊)



負傷者のヘリ搬送 51普連(15旅団)



乗船を待つ部隊 5地对艦(西方特科隊)



情報収集活動 42普連(第8師団)



広報活動 第5施設団



不審物に対する検知・探証 4特防(4師団)



協同基地警備 空自警備部隊

協同基地警備に参加した4師団の隊員コメント「海・空自と協同し、基地警備要領を演練し、対処能力を向上する事ができた」

今年も西部方面隊で鎮西演習が実施された。これは、各種事態における方面隊の対処能力の向上を図るもので、今年で6回目。西部方面隊・中央即応集団・第2師団・第5旅団等が参加し、10月19日から11月19日までの間、西方区内の演習場、自衛隊施設等及び九州・沖縄地区の借用地で行われた。担任官を西部方面総監 小川清史陸将とし、人員約17,000名・車両約4,200両・航空機80機を運用するという国内最大規模の実動演習である。

演習内容としては大きく分けて、①方面隊実動演習(対着上陸作戦・ゲリラコマンドウ対処訓練・空挺部隊の降下訓練・ヘリボン訓練・兵站施設の開設訓練・沿岸監視訓練・施設科部隊の水際障害構成等訓練・航空部隊の飛行訓練・通信訓練)②自衛隊統合演習(水陸両用作戦・海空作戦(陸海空協同対艦攻撃)・協同防空作戦・統合後方補給・基地等の警備・捕虜等の取扱い)③協同転地演習(第2師団の攻撃訓練・第5旅団の防御訓練)の3つとなる。

小川総監の統率・指導方針は「冷静に勝ちに導く」である。



中SAMによる対空戦闘 3高群(2高団)



地对艦戦闘 5地对艦(西方特科隊)